

令和 6年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名：畜産安全課
担当名：総務・畜産企画担当
内線：4189 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
N73	秩父高原牧場運営費			一般会計	農林水産業費	畜産業費	畜産振興費	秩父高原牧場費		
事業期間	昭和48年度～	根拠法令	埼玉県秩父高原牧場条例、埼玉県ふれあい牧場条例、家畜改良増殖法第2条、埼玉県家畜改良増殖計画第1-Ⅱ-4			針路分野施策	12 1202	儲かる農林業の推進 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsゴール 2 SDGsターゲット 2-4	2
1 事業概要 秩父高原牧場は、広大な敷地を利用した放牧により県内酪農家の乳用育成牛を強健な乳牛に育てる受託育成及び黒毛和牛子牛の買取り・生産・譲渡を実施している。また、彩の国ふれあい牧場は、乳製品の手作り体験などにより県民の畜産への理解醸成に取り組んでいる。今後も拠点施設である秩父高原牧場の適切な運営により、本県の畜産振興を図る。				5 事業説明 (1)事業内容 ア 施設管理・乳牛受託育成・ふれあい業務費 66,664千円 県内の畜産振興のため、乳牛の受託育成業務や彩の国ふれあい牧場の適正な運営を図る。 イ 肉牛供給業務費 35,997千円 県内酪農家から受託した乳用牛や県有牛に人工授精や受精卵移植を行い、生産した子牛を牧場で約9か月齢まで育成する。優良な繁殖雌牛として期待できる子牛は県内と牛繁殖農家に、その他の子牛は県内と牛肥育農家に供給する。 (2)事業計画 今後も秩父高原牧場及び彩の国ふれあい牧場の運営により、県内の畜産振興を図る。 (3)事業効果 ・ 乳用育成牛入牧頭数 令和4年度 114頭(現状) → 令和6年度 120頭(計画) ・ 肉用牛譲渡頭数 令和4年度 48頭(現状) → 令和6年度 55頭(計画) ・ ふれあい牧場展示館入館者数 令和4年度 41,474人(現状) → 令和6年度 82,300人(計画) (4)県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 ・ 5月中旬から6月初旬に「天空のポピー」を開催。 ・ 平成26年度からは地元町村、観光協会、商工会及び関係機関からなる「ポピーまつり実行委員会(事務局：皆野町、東秩父村)」主催により開催している。 ・ 「彩の国ふれあい牧場連絡協議会」を軸にして、周辺地域の観光情報など収集、発信し、地元市町村と連携して、新たな特産品の商品化やPR活動、販売を支援する。 ・ 平成29年度には地方創生拠点整備交付金を活用し、ふれあい牧場の大規模修繕を実施した。						
(1)施設管理・乳牛受託育成・ふれあい業務費 経費節減による減額 △5,786千円 (2)肉牛供給業務費 経費節減による減額 △2,875千円										
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)										
3 地方財政措置の状況 なし										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×11.0人＝104,500千円				(5)補正予算の概要 執行節減による需用費等の減						
予算額		財 源 内 訳						一般財源	補正後の 予算額	
		使用料・手数料	財産収入	諸 収 入						
決定額	△8,661							△8,661	102,661	
現計額	111,322	38,420	32,905	25				39,972		

事業内訳書

事業名	秩父高原牧場運営費		
単位事業名	施設管理・乳牛受託育成・ふれあい業務費	予算額	△ 5,786千円

○歳入 (単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	△5,786	—	
合計	△5,786	—	

○歳出 (単位：千円)

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	0	—	
旅費	△50	—	執行節減による旅費の減
需用費	△5,736	—	執行節減による消耗品費、燃料費、印刷製本費、飼料費の減
合計	△5,786	—	

単位事業名	肉牛供給業務費	予算額	△ 2,875千円
-------	---------	-----	-----------

○歳入 (単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	△2,875	—	

単位事業名	肉牛供給業務費	予算額	△ 2,875千円
-------	---------	-----	-----------

(単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
合計	△2,875	—	

○歳出

(単位：千円)

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
需用費	△2,875	—	執行節減による燃料費、飼料費の減
合計	△2,875	—	